

履修科目一覧

動物美容学科							
ペット美容トリマー専攻							
1 年				2 年			
科目	前期	後期	貢	科目	前期	後期	貢
ペット美容学Ⅰ	○		108	ペット美容学Ⅲ	○		131
ペット美容学Ⅱ		○	109	ペット美容学Ⅳ		○	132
ペットエステ学Ⅰ	○		110	ペットエステ学Ⅲ	○		133
ペットエステ学Ⅱ		○	111	ペットエステ学Ⅳ		○	134
犬猫総論	○		112	犬・猫の病気Ⅱ	○		135
公衆衛生学	○		113	グルーミング実習Ⅲ	○		136
エキゾチックアニマル学		○	114	グルーミング実習Ⅳ		○	137
ペット栄養学		○	115	動物飼育実習Ⅲ	○		138
犬・猫の病気Ⅰ		○	116	動物飼育実習Ⅳ		○	139
グルーミング実習Ⅰ	○		117	動物美容総合実習Ⅱ	○		140
グルーミング実習Ⅱ		○	118	検定対策Ⅲ	○		141
動物飼育実習Ⅰ	○		119	就職実務Ⅲ	○		142
動物飼育実習Ⅱ		○	120				
ペットトレーニング実習Ⅰ	○		121				
ペットトレーニング実習Ⅱ		○	122				
動物美容総合実習Ⅰ		○	123				
検定対策Ⅰ	○		124				
検定対策Ⅱ		○	125				
就職実務Ⅰ	○		126				
就職実務Ⅱ		○	127				
接客・マナー	○		128				
パソコン実習		○	129				
動物関連法規	○		130				

科目名	ペット美容学 I		
学科名	ペット美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	60時間	単位数	2 単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。シャンプーコース(各部バリカン、部分カット含む)を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定3級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、ドッググルーミングブック(エデュワードプラス)、トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウイネット)		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び学期末試験の点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	グルーマーの心得	グルーミングの目的と心構え、犬の扱い方
第2回目	グルーミング道具①	道具の説明、ハサミの種類と使い方、基礎缺
第3回目	グルーミング道具②	道具の説明、ブラシ類と使い方、基礎練習
第4回目	グルーミング道具③	道具の説明、バリカンの種類と使い方
第5回目	グルーミング道具④	道具の説明、その他の道具と使い方
第6回目	グルーマー基礎知識①	犬のケアについて手入れのやり方とポイント
第7回目	グルーマー基礎知識②	ベイジングの手順とブロー
第8回目	グルーマー基礎知識③	グルーミング用語
第9回目	犬の基礎知識①	犬の分類、犬種、グループ
第10回目	犬の基礎知識②	特徴、性格
第11回目	犬の基礎知識③	犬の毛色
第12回目	犬の基礎知識④	骨格名称と犬体名称
第13回目	犬の基礎知識⑤	体の構造と体温
第14回目	犬の基礎知識⑥	皮膚と被毛の知識
第15回目	まとめ	まとめ、確認テスト

科目名	ペット美容学Ⅱ		
学科名	ペット美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	60時間	単位数	2 単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。シャンプーコース(各部バリカン、部分カット含む)を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定3級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、ドッググルーミングブック(エデュワードプラス)、トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウイネット)		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び学期末試験の点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	グルーマー獣医学①	健康の確認、病気の早期発見
第2回目	グルーマー獣医学②	皮膚の疾患、その他の疾患について
第3回目	グルーマー獣医学③	グルーミングにおける衛生管理、消毒薬について
第4回目	グルーマー獣医学④	グルーミングで注意すべき感染症とその予防
第5回目	ベイジング、ドライング	シャンプーの種類、ベイジングについて
第6回目	ベイジング、ドライング	キレイに乾かすために必要なことブローのポイント
第7回目	よい犬とは	ショークリップと犬のスタンダードについて
第8回目	よい犬とは	ショークリップと犬のスタンダードについて
第9回目	トリミング①	ラムクリップのバランスと名称
第10回目	トリミング②	ラムクリップのバランスと名称
第11回目	トリミング③	ラムクリップの手順とトリミングのポイント
第12回目	トリミング④	ラムクリップの手順とトリミングのポイント
第13回目	トリミング⑤	ラムクリップまとめ
第14回目	トリミング⑥	ラムクリップまとめ
第15回目	トリミング⑦	ラムクリップまとめ

科目名	ペットエステ学 I		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美 ・ 木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	ペットエステティックの哲学、理念、を学び、ペットの健康維持、促進を意識した技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	PEIA ブロンズクラス		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	PEIA教本(ブロンズ)		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	エステ概論	概論、歴史、コミュニケーション
第3回目～第4回目	シャンプー理論①	シャンプー
第5回目～第6回目	シャンプー理論②	ドライイング
第7回目～第8回目	コンディショニング理論	コンディショナー
第9回目～第10回目	アロマバス①	アロマバスとは
第11回目～第12回目	アロマバス②	実習
第13回目～第14回目	アロマバス③	実習
第15回目～第16回目	ネイル・肉球	ペットネイル・肉球ケア
第17回目～第18回目	タラソセラピー①	タラソセラピーとは
第19回目～第20回目	タラソセラピー①	タラソセラピーの手順
第21回目～第22回目	タラソセラピー①	実習
第23回目～第24回目	タラソセラピー①	実習
第25回目～第26回目	タラソセラピー①	実習
第27回目～第28回目	タラソセラピー①	実習
第29回目～第30回目	総まとめ	ブロンズまとめ

科目名	ペットエステ学Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美 ・ 木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	ペットエステティックの哲学、理念、を学び、ペットの健康維持、促進を意識した技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	PEIA シルバークラス		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	PEIA教本(シルバー)		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	アロマセラピー①	人間のアロマセラピー
第3回目～第4回目	アロマセラピー①	アロマセラピーがもたらすメリット
第5回目～第6回目	アロマセラピー①	アロマセラピーシステム、マッサージ技法
第7回目～第8回目	実習	アロマセラピーとマッサージの実習
第9回目～第10回目	ビビットカラー①	ビビットカラーシステムのメカニズム
第11回目～第12回目	ビビットカラー②	ビビットカラーのメリット
第13回目～第14回目	ビビットカラー③	ビビットカラーの紹介
第15回目～第16回目	実習	ビビットカラーでの染色実習
第17回目～第18回目	実習	ビビットカラーでの染色実習
第19回目～第20回目	カラーストレッチ②	カラーストレッチのメカニズム
第21回目～第22回目	カラーストレッチ③	カラーストレッチシステム
第23回目～第24回目	カラーストレッチ④	アフターケア用品について
第25回目～第26回目	実習	カラーストレッチ実習
第27回目～第28回目	実習	カラーストレッチ実習
第29回目～第30回目	総まとめ	シルバーまとめ

科目名	犬猫総論		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	犬猫の歴史から品種、日常の飼養管理方法について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	犬猫の生体を理解し、飼い主様にアドバイスできる知識を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	犬と猫との暮らしの教科書		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	犬の歴史	犬の歴史について理解する
第2回目	猫の歴史	猫の歴史について理解する
第3回目	犬の品種	犬の品種について理解する
第4回目	猫の品種	猫の品種について理解する
第5回目	犬の感情表現	犬のボディランゲージを理解する
第6回目	猫の感情表現	猫のボディランゲージを理解する
第7回目	犬の飼養管理①	犬の適切な飼養管理方法について理解する
第8回目	犬の飼養管理②	犬の適切な飼養管理方法について理解する
第9回目	猫の飼養管理①	猫の適切な飼養管理方法について理解する
第10回目	猫の飼養管理②	猫の適切な飼養管理方法について理解する
第11回目	犬の基本的な扱い①	犬を安全に散歩・運動・ふれあいさせることの意義について理解する
第12回目	犬の基本的な扱い②	犬を安全に散歩・運動・ふれあいさせることの意義について理解する
第13回目	猫も基本的な扱い①	猫を安全に運動・ふれあいさせることの意義について理解する
第14回目	猫も基本的な扱い②	猫を安全に運動・ふれあいさせることの意義について理解する
第15回目	まとめ	総まとめ

科目名	公衆衛生学		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	環境及び食品衛生、疫学、人畜共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	公衆衛生学について理解し、衛生管理について理解する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	公衆衛生の概要①	公衆衛生の目的について理解する
第2回目	公衆衛生の概要②	公衆衛生行政について理解する
第3回目	公衆衛生の概要③	国民衛生の動向について理解する
第4回目	疫学と疾病予防①	感染の成立について理解する
第5回目	疫学と疾病予防②	疾病・健康障害の発生要因について理解する
第6回目	疫学と疾病予防③	疫学調査法について理解する
第7回目	疫学と疾病予防④	予防疫学について理解する
第8回目	疫学と疾病予防⑤	人獣共通感染症とその対策について理解する
第9回目	疫学と疾病予防⑥	狂犬病予防について理解する
第10回目	環境衛生①	環境衛生について、歴史、背景、現在の問題点について理解する
第11回目	環境衛生②	化学物質によってもたらされる健康障害について理解する
第12回目	環境衛生③	衛生動物による人や動物への被害と対策について理解する
第13回目	環境衛生④	動物の咬傷による人への健康障害について理解する
第14回目	食品衛生	動物性食品の衛生について理解する
第15回目	まとめ	総まとめ

科目名	エキゾチックアニマル学		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	石樽 有実子	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	エキゾチックアニマルの種類や飼養方法、病気などについて学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	エキゾチックアニマルを適正に扱うことができる知識を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ペットの飼養管理(日本愛玩動物協会)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的に動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ウサギ①	生物観と飼育難易度、生物学的特徴、生物学的分類
第2回目	ウサギ②	品種とその特徴、身体検査、飼育方法・環境、消火に関する仕組み
第3回目	ウサギ③	雌雄判別、繁殖・妊娠、看護、疾患・治療
第4回目	ハムスター①	生物観と飼育難易度、品種、生物学的特徴
第5回目	ハムスター②	生物学的分類、身体検査、飼育環境
第6回目	ハムスター③	繁殖、看護、疾患
第7回目	鳥①	生物観と飼育難易度、品種、生物学的特徴
第8回目	鳥②	生物学的分類、身体検査、飼育環境
第9回目	鳥③	繁殖、看護、疾患
第10回目	チンチラ①	生物観と飼育難易度、品種、生物学的特徴
第11回目	チンチラ②	生物学的分類、身体検査、飼育方法・環境
第12回目	チンチラ③	繁殖、看護、疾患
第13回目	フェレット①	生物観と飼育難易度、品種、生物学的特徴
第14回目	フェレット②	生物学的分類、身体検査、飼育環境
第15回目	フェレット③	繁殖、看護、疾患

科目名	ペット栄養学		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	五大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	五大栄養素やその代謝など基礎栄養学を理解し、愛玩動物飼養管理士検定合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	犬と猫の暮らしの教科書		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的に動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	基礎栄養学①	栄養素とエネルギー
第2回目	基礎栄養学②	エネルギーとエネルギー要求量
第3回目	基礎栄養学③	6大栄養素の働きと特性①
第4回目	基礎栄養学④	6大栄養素の働きと特性②
第5回目	基礎栄養学⑤	消化と吸収
第6回目	基礎栄養学⑥	犬と猫の味覚、危険な食べ物
第7回目	ペットフード①	歴史と規制
第8回目	ペットフード②	製造方法、種類
第9回目	ペットフード③	ラベルの読み方、選び方
第10回目	ペットフード④	給与方法、ライフステージ別栄養管理
第11回目	ペットフード⑤	手作りおやつ
第12回目	臨床栄養学①	病態と食事管理、療法食①
第13回目	臨床栄養学②	病態と食事管理、療法食②
第14回目	臨床栄養学③	病態と食事管理、療法食③
第15回目	臨床栄養学④	病態と食事管理、療法食④

科目名	犬・猫の病気 I		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	健康状態を把握することで、病気の早期発見ができる知識を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	犬・猫の病気を学び、些細な異変にも気づけ、飼い主様に頼られる人材を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	わかる犬の病気(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的に動きを学ぶ実習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	全身チェック	全身状態
第2回目	共通感染症	共通感染症とは
第3回目	病気の知識①	皮膚の病気①
第4回目	病気の知識②	皮膚の病気②
第5回目	病気の知識③	耳の病気①
第6回目	病気の知識④	耳の病気②
第7回目	病気の知識③	目の病気①
第8回目	病気の知識④	目の病気②
第9回目	病気の知識⑤	鼻と口の病気①
第10回目	病気の知識⑥	鼻と口の病気②
第11回目	病気の知識⑦	お尻・お腹のまわりの病気①
第12回目	病気の知識⑧	お尻・お腹のまわりの病気②
第13回目	病気の知識⑨	足先・膝・腰まわりの病気①
第14回目	病気の知識⑩	足先・膝・腰まわりの病気②
第15回目	まとめ	総まとめ

科目名	グルーミング実習 I		
学科名	ペット美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	240時間	単位数	8単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美・伊井 由莉香・小木曾 佳美	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。シャンプーコース(各部バリカン、部分カット含む)を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定3級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、ドッググルーミングブック(エデュワードプレス)、トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウイネット)		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び実技試験の点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	グルーミング道具①	グルーミングの説明と一連の流れ
第2回目	グルーミング道具②	道具の説明・基礎練習
第3回目	練習①	ウィックでのブラッシング練習、カット練習
第4回目	練習②	ウィックでのブラッシング練習、カット練習
第5回目	練習③	ウィックでのブラッシング練習、カット練習
第6回目	練習④	ウィックでのブラッシング練習、カット練習
第7回目	実習①	実習犬での爪切り、耳掃除、ブラッシング実習
第8回目	実習②	実習犬での爪切り、耳掃除、ブラッシング実習
第9回目	実習③	実習犬でのシャンプー実習
第10回目	実習④	実習犬でのシャンプー実習
第11回目	実習⑤	実習犬でのシャンプー実習
第12回目	実習⑥	実習犬でのシャンプー実習
第13回目	実習⑦	実習犬でのシャンプー実習+部分カット
第14回目	実習⑧	実習犬でのシャンプー実習+部分カット
第15回目	実習⑨	実習犬でのシャンプー実習+部分カット

科目名	グルーミング実習Ⅱ		
学科名	ペット美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	240時間	単位数	8単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美・伊井 由莉香・小木曾 佳美	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。シャンプーコース(各部バリカン、部分カット含む)を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定3級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、ドッググルーミングブック(エデュワードプラス)、トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウイネット)		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び実技試験の点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	実習①	実習犬でのシャンプー+部分カット実習
第2回目	実習②	実習犬でのシャンプー+部分カット実習
第3回目	実習③	実習犬でのシャンプー+全体カット実習
第4回目	実習④	実習犬でのシャンプー+全体カット実習
第5回目	実習⑤	実習犬でのシャンプー+全体カット実習
第6回目	実習⑥	実習犬でのシャンプー+全体カット実習
第7回目	実習⑦	実習犬でのシャンプー+全体カット実習
第8回目	実習⑧	実習犬でのシャンプー+全体カット実習
第9回目	実習⑨	実習犬でのシャンプー+全体カット実習
第10回目	実習⑩	実習犬でのシャンプー+全体カット実習
第11回目	実習⑪	実習犬でのシャンプー+全体カット実習
第12回目	実習⑫	実習犬でのシャンプー+全体カット実習
第13回目	実習⑬	実習犬でのシャンプー+全体カット実習
第14回目	実習⑭	実習犬でのシャンプー+全体カット実習まとめ
第15回目	実習⑮	実習犬でのシャンプー+全体カット実習まとめ

科目名	動物飼育実習 I		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	実際に動物を世話することで飼育に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	飼育管理	学校飼育の心構え
第2回目	飼育実習①	飼育管理方法
第3回目	飼育実習②	飼育管理方法
第4回目	飼育実習③	飼育管理方法
第5回目	飼育実習④	飼育管理方法
第6回目	飼育実習⑤	飼育管理方法
第7回目	飼育実習⑥	飼育管理方法
第8回目	飼育実習⑦	班で協力分担し、動物の飼育を実践する
第9回目	飼育実習⑧	班で協力分担し、動物の飼育を実践する
第10回目	飼育実習⑨	班で協力分担し、動物の飼育を実践する
第11回目	飼育実習⑩	班で協力分担し、動物の飼育を実践する
第12回目	飼育実習⑪	班で協力分担し、動物の飼育を実践する
第13回目	飼育実習⑫	班で協力分担し、動物の飼育を実践する
第14回目	飼育実習⑬	班で協力分担し、動物の飼育を実践する
第15回目	飼育実習⑭	班で協力分担し、動物の飼育を実践する

科目名	動物飼育実習Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	実際に動物を世話することで飼育に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物飼育実習①	お互いの動きを把握し、効率よく実践する
第2回目	動物飼育実習②	お互いの動きを把握し、効率よく実践する
第3回目	動物飼育実習③	お互いの動きを把握し、効率よく実践する
第4回目	動物飼育実習④	お互いの動きを把握し、効率よく実践する
第5回目	動物飼育実習⑤	お互いの動きを把握し、効率よく実践する
第6回目	動物飼育実習⑥	お互いの動きを把握し、効率よく実践する
第7回目	動物飼育実習⑦	お互いの動きを把握し、効率よく実践する
第8回目	動物飼育実習⑧	お互いの動きを把握し、効率よく実践する
第9回目	動物飼育実習⑨	お互いの動きを把握し、効率よく実践する
第10回目	動物飼育実習⑩	お互いの動きを把握し、効率よく実践する
第11回目	動物飼育実習⑪	トラブルの対策法や予防策
第12回目	動物飼育実習⑫	トラブルの対策法や予防策
第13回目	動物飼育実習⑬	トラブルの対策法や予防策
第14回目	動物飼育実習⑭	トラブルの対策法や予防策
第15回目	動物飼育実習⑮	トラブルの対策法や予防策

科目名	ペットトレーニング実習 I		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	原田 文博	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	犬や猫などの動物に関する扱い方を学ぶ。また、トリミングを嫌がらずに受け入れられるようにするトレーニング方法を理解する。更には飼い主への指導方法や基礎的なトレーニング技術の修得も目指す。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	基本的な犬の扱い方やトレーニング方法を理解する。また、それらの知識、技術がトリミングに応用できるようになる		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	犬と猫との暮らしの教科書・chromebook		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業は実習主体となるが、テーマによっては事前学習のため座学を取り入れることもある。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	授業の進め方	実習の注意事項、動物の扱い方、備品準備説明
第2回目	犬猫との接し方	犬猫との正しい接し方
第3回目	トレーニングの進め方	前回の確認、トレーニングプラン立案、実践、検証
第4回目	トレーニング日誌	トレーニング日誌の作成、提出方法
第5回目	しつけの意義や役割	しつけの必要性、しつけをしないことによる生活への弊害
第6回目	犬猫の学習	行動観察、自発的行動、誘導
第7回目	しつけの学習理論①	生得的行動と習得的行動
第8回目	社会化①	犬猫の社会化期、社会化期の特徴、環境への慣れさせ方
第9回目	社会化トレーニング①	環境に慣れさせる
第10回目	社会化②	人や他の動物に慣れさせる方法
第11回目	社会化トレーニング②	人や他の動物に慣れさせる
第12回目	社会化③	子犬、子猫におけるグルーミングの重要性と慣れさせ方
第13回目	社会化トレーニング③	グルーミングに慣れさせる
第14回目	しつけの学習理論②	古典的条件づけ
第15回目	期末試験対策	期末試験に向けたトレーニング

科目名	ペットトレーニング実習Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	原田 文博	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	犬や猫などの動物に関する扱い方を学ぶ。また、トリミングを嫌がらずに受け入れられるようにするトレーニング方法を理解する。更には飼い主への指導方法や基礎的なトレーニング技術の修得も目指す。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	基本的な犬の扱い方やトレーニング方法を理解する。また、それらの知識、技術がトリミングに応用できるようになる		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	犬と猫との暮らしの教科書・chromebook		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業は実習主体となるが、テーマによっては事前学習のため座学を取り入れることもある。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	しつけの学習理論③	オペラント条件付けとトレーニングへの応用
第2回目	しつけの学習理論④	三項随伴性とトレーニング実践
第3回目	グルーミングトレーニング理論①	状況確認、トレーニングプランの立て方
第4回目	グルーミングトレーニング理論②	段階的トレーニング方法
第5回目	グルーミングトレーニング①	台の上に慣れさせるトレーニング
第6回目	グルーミングトレーニング②	ブラッシングに慣れさせるトレーニング①
第7回目	グルーミングトレーニング③	ブラッシングに慣れさせるトレーニング②
第8回目	グルーミングトレーニング④	爪切りに慣れさせるトレーニング①
第9回目	グルーミングトレーニング⑤	爪切りに慣れさせるトレーニング②
第10回目	グルーミングトレーニング⑥	耳のケアに慣れさせるトレーニング①
第11回目	グルーミングトレーニング⑦	耳のケアに慣れさせるトレーニング②
第12回目	グルーミングトレーニング⑧	口腔内ケアに慣れさせるトレーニング①
第13回目	グルーミングトレーニング⑨	口腔内ケアに慣れさせるトレーニング②
第14回目	期末試験対策	期末試験に向けたトレーニング
第15回目	まとめ	1年間のまとめ

科目名	動物美容総合実習 I		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	90時間	単位数	3単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	様々ペット関連企業でトリマーとしての役割を知る。自分の理想とするトリマーになる為に自己の課題を見つけ、キャリアデザインを設計する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	トリマーとして必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた企業において実施する。なお実習中に不足の事態が生じた場合は、三者(学校・学生・動物企業)で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	120時間習得しなければならない。		

授 業 計 画 内 容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。

動物企業現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。

1. 実習準備

- ・事前訪問予約
- ・持ち物・実習の内容等確認

2. 実習(実務型実習)

- ・諸注意事項確認
- ・実習日誌を書く(感想・反省・自己評価)
- ・清掃
- ・グルーミング業務

3. 実習後指導

- ・実習日誌まとめ提出
- ・お礼状

科目名	検定対策 I		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	取得した知識の実践を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト・過去問題集など。		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は演習問題を繰り返すため、主体的に取り組み理解を深める学習をしてほしい。また、テーマによっては、講義も行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	愛玩動物飼養管理士①	課題問題①
第2回目	愛玩動物飼養管理士②	課題問題②
第3回目	愛玩動物飼養管理士③	課題問題③
第4回目	愛玩動物飼養管理士④	課題問題④
第5回目	愛玩動物飼養管理士⑤	課題問題⑤
第6回目	愛玩動物飼養管理士⑥	課題問題⑥
第7回目	愛玩動物飼養管理士⑦	課題問題⑦
第8回目	愛玩動物飼養管理士⑧	課題問題⑧
第9回目	愛玩動物飼養管理士⑨	課題問題⑨
第10回目	愛玩動物飼養管理士⑩	課題問題⑩
第11回目	電話対応技能検定	問題集①
第12回目	電話対応技能検定	問題集②
第13回目	電話対応技能検定	問題集③
第14回目	電話対応技能検定	問題集④
第15回目	電話対応技能検定	問題集⑤

科目名	検定対策Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	取得した知識の実践を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト・過去問題集など。		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は演習問題を繰り返すため、主体的に取り組み理解を深める学習をしてほしい。また、テーマによっては、講義も行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	社会人常識マナー検定①	過去問題集①
第2回目	社会人常識マナー検定②	過去問題集②
第3回目	社会人常識マナー検定③	過去問題集③
第4回目	社会人常識マナー検定④	過去問題集④
第5回目	社会人常識マナー検定⑤	過去問題集⑤
第6回目	サロントリマー検定①	課題問題①
第7回目	サロントリマー検定②	課題問題②
第8回目	サロントリマー検定③	課題問題③
第9回目	サロントリマー検定④	課題問題④
第10回目	サロントリマー検定⑤	課題問題⑤
第11回目	PEIA	シルバー①
第12回目	PEIA	シルバー②
第13回目	PEIA	シルバー③
第14回目	PEIA	シルバー④
第15回目	PEIA	シルバー⑤

科目名	就職実務 I		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	履歴書の書き方や身だしなみ、心構えなど、就職活動の基礎を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職活動の基礎を学び、円滑な就職活動の準備をする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は講義になるが、テーマによっては実技演習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	心構え	就職活動における心構えを理解する
第2回目	身だしなみ①	就職活動における身だしなみを理解する
第3回目	身だしなみ②	就職活動における身だしなみを理解する
第4回目	話し方①	発声・表情の練習
第5回目	話し方②	話題の作り方
第6回目	電話対応①	電話のかけ方、話し方
第7回目	電話対応②	電話のかけ方、話し方
第8回目	職場のマナー①	職場のマナーを理解する
第9回目	職場のマナー②	来客対応を理解する
第10回目	社会保障①	社会保障制度について理解する
第11回目	社会保障②	社会保障制度について理解する
第12回目	働くこととは①	労働基準法について理解する
第13回目	働くこととは②	仕事での課題解決方法を理解する
第14回目	企業研究①	就職を視野に入れている企業について調べる
第15回目	企業研究②	就職を視野に入れている企業について調べる

科目名	就職実務Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	履歴書の書き方や身だしなみ、心構えなど、就職活動の基礎を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職活動の基礎を学び、円滑な就職活動の準備をする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は講義になるが、テーマによっては実技演習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	美文字練習①	ペン字を学び、きれいな字が書けるようにする
第2回目	美文字練習②	ペン字を学び、きれいな字が書けるようにする
第3回目	履歴書準備①	履歴書に記載する内容の整理
第4回目	履歴書準備②	履歴書に記載する内容の整理
第5回目	履歴書準備③	履歴書に記載する内容の整理
第6回目	自己啓発①	自分に自信を持つための自己啓発学習
第7回目	自己啓発②	自分に自信を持つための自己啓発学習
第8回目	自己啓発③	自分に自信を持つための自己啓発学習
第9回目	履歴書作成①	履歴書を書く
第10回目	履歴書作成②	履歴書を書く
第11回目	企業訪問①	企業訪問時のマナーや注意点について理解する
第12回目	企業訪問②	企業訪問時のマナーや注意点について理解する
第13回目	企業訪問③	企業訪問時のマナーや注意点について理解する
第14回目	企業訪問④	企業訪問時のマナーや注意点について理解する
第15回目	企業訪問⑤	企業訪問時のマナーや注意点について理解する

科目名	接客・マナー		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	企業・社会のしくみと幅広いマナーを理解し、リーダーシップ、トラブル対応などさまざまなビジネス場面で発揮できる能力を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	職場に必要なビジネスマナーを理解する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	社会人常識マナー検定テキスト		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	コミュニケーション①	人間関係を円滑にするコミュニケーション
第2回目	コミュニケーション②	社会人にふさわしい言葉遣い①
第3回目	コミュニケーション③	社会人にふさわしい言葉遣い②
第4回目	コミュニケーション④	ビジネス文章
第5回目	ビジネスマナー①	職場のマナー①
第6回目	ビジネスマナー②	職場のマナー②
第7回目	ビジネスマナー③	来客対応①
第8回目	ビジネスマナー④	来客対応②
第9回目	ビジネスマナー⑤	電話対応①
第10回目	ビジネスマナー⑥	電話対応②
第11回目	ビジネスマナー⑦	交際業務①
第12回目	ビジネスマナー⑧	交際業務②
第13回目	ビジネスマナー⑨	文章類の受け取りと発送①
第14回目	ビジネスマナー⑩	文章類の受け取りと発送②
第15回目	まとめ	総まとめ

科目名	パソコン実習		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	原田 文博	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	社会人としての必須能力である文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本操作を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	パソコンに関する知識、技術を身につけ、業務に役立てる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	chromebook		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	パソコン基礎①	PCのシャットダウン、タイピング、データ保存
第2回目	パソコン基礎②	サロンブログ作成
第3回目	パソコン基礎③	サロンブログ作成
第4回目	パソコン基礎③	ビジネスメールの送信
第5回目	文書作成ソフト①	タイピング、文書の作成①
第6回目	文書作成ソフト②	タイピング、文書の作成②
第7回目	文書作成ソフト③	タイピング、文書の作成③
第8回目	文書作成ソフト④	チラシ作成①
第9回目	文書作成ソフト⑤	チラシ作成②
第10回目	表計算ソフト①	ワークシートの作成・編集①
第11回目	表計算ソフト②	連続データ、合計、平均
第12回目	表計算ソフト③	グラフ作成①
第13回目	表計算ソフト④	グラフ作成②
第14回目	表計算ソフト⑤	報告書作成①
第15回目	表計算ソフト⑥	報告書作成②
第16回目	表計算ソフト⑦	報告書作成②
第17回目	プレゼンテーションソフト①	プレゼン資料の作成①
第18回目	プレゼンテーションソフト②	プレゼン資料の作成②
第19回目	プレゼンテーションソフト③	プレゼン資料の作成③
第20回目	プレゼンテーションソフト④	発表

科目名	動物関連法規		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物関連法規を理解し、正しい知識を修得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物愛護法入門		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物愛護法①	動物殺処分状況、動物愛護法の制定と改正の経緯、さまざまなルール
第2回目	動物愛護法②	動物愛護法の考え方・理念
第3回目	動物愛護法③	第1種動物取扱業者、第2種動物取扱業者
第4回目	動物愛護法④	飼い主の責務、多頭飼育の適正化
第5回目	動物愛護法⑤	特定動物の飼養・保管、犬猫の繁殖制限、動物愛護推進員、動物愛護協議会
第6回目	動物愛護法⑥	行政の役割、動物愛護推進計画の策定、動物の取り扱いに関する行政の指導
第7回目	動物愛護法⑦	犬猫の引取り、動物愛護管理センター、獣医師法、獣医師の役割と責務
第8回目	動物愛護法⑧	動物愛護法の課題、実験動物の取扱い
第9回目	動物愛護法⑨	飼い主のいない猫の繁殖制限、地域猫活動、不妊去勢の義務化
第10回目	動物愛護法⑩	動物取扱業者の適正化、自治体の収容施設の役割、現状と問題点、今後の課題
第11回目	動物愛護法⑪	ペットの高齢化、動物愛護法まとめ
第12回目	その他の法律①	労働基準法
第13回目	その他の法律②	狂犬病予防法
第14回目	その他の法律③	個人情報保護法
第15回目	まとめ	総まとめ

科目名	ペット美容学Ⅲ		
学科名	ペット美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。シャンプーコース(各部バリカン、部分カット含む)を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定1級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、ドッググルーミングブック(エデュワードプラス)、トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウイネット)		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び学期末試験の点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ショップにおける基本知識①	受付、対応について
第2回目	ショップにおける基本知識②	受付、対応について
第3回目	ショップでのペットカット①	基本スタイル、テディベアカットの作り方
第4回目	ショップでのペットカット②	基本スタイル、テディベアカットの作り方
第5回目	ショップでのペットカット③	応用スタイル、アフロ、モヒカン、マスタッシュ、その他のスタイル
第6回目	ショップでのペットカット④	応用スタイル、アフロ、モヒカン、マスタッシュ、その他のスタイル
第7回目	トリミング④	プードルの容姿と特徴
第8回目	トリミング⑤	プードルのカットの手順と要点
第9回目	トリミング⑥	ミニチュアシュナウザーの容姿と特徴
第10回目	トリミング⑦	ミニチュアシュナウザーのカットの手順と要点
第11回目	トリミング⑧	ミニチュアシュナウザーのショークリップ
第12回目	トリミング⑨	ミニチュアシュナウザーまとめ
第13回目	トリミング⑩	ビションフリーゼの容姿と特徴
第14回目	トリミング⑪	ビションフリーゼのカットの手順と要点
第15回目	トリミング⑫	カットテクニックの復習、まとめ

科目名	ペット美容学Ⅳ		
学科名	ペット美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。シャンプーコース(各部バリカン、部分カット含む)を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定1級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、ドッググルーミングブック(エデュワードプラス)、トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウイネット)		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び学期末試験の点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	講義が中心になるが道具や動物に触る機会があるなら取り入れる。実習を意識した学習を行うように心掛ける。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	トリミング①	シーズーの容姿と特徴
第2回目	トリミング②	シーズーのカットの手順と要点
第3回目	トリミング③	ヨークシャーテリアの容姿と特徴
第4回目	トリミング④	ヨークシャーテリアのカットの手順と要点
第5回目	トリミング⑤	マルチーズの容姿と特徴
第6回目	トリミング⑥	マルチーズのカット手順と要点
第7回目	トリミング⑦	ポメラニアン容姿と特徴
第8回目	トリミング⑧	ポメラニアンのカット手順と要点
第9回目	トリミング⑨	シェルティーの容姿と特徴
第10回目	トリミング⑩	シェルティーのカットの手順と要点
第11回目	トリミング⑪	ウェスティの容姿と特徴
第12回目	トリミング⑫	ウェスティのカットの手順と要点
第13回目	トリミング⑬	シェルティーの容姿の特徴と要点
第14回目	トリミング⑭	Aコッカーの容姿と特徴
第15回目	トリミング⑮	Aコッカーのカットの手順と要点

科目名	ペットエステ学Ⅲ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美 ・ 木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	ペットエステティックの哲学、理念、を学び、ペットの健康維持、促進を意識した技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	PEIA ゴールドクラス		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	PEIA教本(ゴールド)		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	概論	ペットマッサージ概論
第3回目～第4回目	技法①	ツボ①
第5回目～第6回目	技法②	ツボ②
第7回目～第8回目	技法③	ツボ③
第9回目～第10回目	アロマ①	アロマセラピーの復習
第11回目～第12回目	アロマ②	アロマセラピーの復習
第13回目～第14回目	技法④	カッサ①
第15回目～第16回目	技法⑤	カッサ②
第17回目～第18回目	総まとめ	ゴールドまとめ
第19回目～第20回目	実習①	講習会①
第21回目～第22回目	実習②	講習会②
第23回目～第24回目	実習③	講習会③
第25回目～第26回目	実習④	講習会④
第27回目～第28回目	実習⑤	講習会⑤
第29回目～第30回目	実習⑥	講習会⑥

科目名	ペットエステ学Ⅳ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美 ・ 木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	ペットエステティックの哲学、理念、を学び、ペットの健康維持、促進を意識した技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	PEIA ゴールドクラス		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	PEIA教本(ゴールド)		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	PEIA実習①	マッサージ①
第3回目～第4回目	PEIA実習②	マッサージ②
第5回目～第6回目	PEIA実習③	アロマセラピー①
第7回目～第8回目	PEIA実習④	アロマセラピー②
第9回目～第10回目	PEIA実習⑤	アロマセラピー③
第11回目～第12回目	PEIA実習⑥	タラソーセラピー④
第13回目～第14回目	PEIA実習⑦	タラソーセラピー⑤
第15回目～第16回目	PEIA実習⑧	タラソーセラピー⑥
第17回目～第18回目	PEIA実習⑨	カラーレストレーション⑦
第19回目～第20回目	PEIA実習⑩	カラーレストレーション⑧
第21回目～第22回目	PEIA実習⑪	カラーレストレーション⑨
第23回目～第24回目	PEIA実習⑫	ビビットカラー
第25回目～第26回目	PEIA実習⑬	ビビットカラー⑪
第27回目～第28回目	PEIA実習⑭	ビビットカラー⑫
第29回目～第30回目	総まとめ	PEIAまとめ

科目名	犬・猫の病気Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	トリミングで実際起こりうるケガや病気の症状、トラブルの対処法について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	トラブルが起きた時に適切な対応が取れるようになる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	わかる犬の病気		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	必須基礎知識①	シャンプー剤
第2回目	必須基礎知識②	消毒
第3回目	必須基礎知識③	ワクチン①
第4回目	必須基礎知識④	ワクチン②
第5回目	病気の応答①	飼い主さんからの質問対応①
第6回目	病気の応答②	飼い主さんからの質問対応②
第7回目	病気の応答③	飼い主さんからの質問対応③
第8回目	病気の応答④	飼い主さんからの質問対応④
第9回目	病気の応答⑤	飼い主さんからの質問対応⑤
第10回目	トラブル解決①	トリミングトラブル①
第11回目	トラブル解決②	トリミングトラブル⑤
第12回目	トラブル解決③	トリミングトラブル③
第13回目	トラブル解決④	トリミングトラブル④
第14回目	トラブル解決⑤	トリミングトラブル⑤
第15回目	総まとめ	まとめ

科目名	グルーミング実習Ⅲ		
学科名	ペット美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	240時間	単位数	8単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美・伊井 由莉香・小木曾 佳美	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。シャンプーコース(各部バリカン、部分カット含む)を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定1級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、ドッググルーミングブック(エデュワードプラス)、トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウイネット)		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び実技試験の点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	実習①	お客様への対応方法、注意点
第2回目	実習②	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第3回目	実習③	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第4回目	実習④	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第5回目	実習⑤	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第6回目	実習⑥	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第7回目	実習⑦	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第8回目	実習⑧	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第9回目	実習⑨	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第10回目	実習⑩	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第11回目	実習⑪	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第12回目	実習⑫	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第13回目	実習⑬	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第14回目	実習⑭	実習犬でのシャンプー、全体カット実習まとめ
第15回目	実習⑮	実習犬でのシャンプー、全体カット実習まとめ

科目名	グルーミング実習Ⅳ		
学科名	ペット美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	360時間	単位数	12単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美・伊井 由莉香・小木曾 佳美	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。シャンプーコース(各部バリカン、部分カット含む)を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定1級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、ドッググルーミングブック(エデュワードプラス)、トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウイネット)		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び実技試験の点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	実習①	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第2回目	実習②	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第3回目	実習③	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第4回目	実習④	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第5回目	実習⑤	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第6回目	実習⑥	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第7回目	実習⑦	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第8回目	実習⑧	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第9回目	実習⑨	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第10回目	実習⑩	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第11回目	実習⑪	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第12回目	実習⑫	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第13回目	実習⑬	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第14回目	実習⑭	実習犬でのシャンプー、全体カット実習まとめ
第15回目	実習⑮	実習犬でのシャンプー、全体カット実習まとめ

科目名	動物飼育実習Ⅲ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	実際に動物を世話することで飼育に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物飼育実習①	飼育環境を整える
第2回目	動物飼育実習②	飼育環境を整える
第3回目	動物飼育実習③	飼育環境を整える
第4回目	動物飼育実習④	飼育環境を整える
第5回目	動物飼育実習⑤	飼育環境を整える
第6回目	動物飼育実習⑥	飼育環境を整える
第7回目	動物飼育実習⑦	飼育環境を整える
第8回目	動物飼育実習⑧	指導力を身につける
第9回目	動物飼育実習⑨	指導力を身につける
第10回目	動物飼育実習⑩	指導力を身につける
第11回目	動物飼育実習⑪	指導力を身につける
第12回目	動物飼育実習⑫	指導力を身につける
第13回目	動物飼育実習⑬	指導力を身につける
第14回目	動物飼育実習⑭	指導力を身につける
第15回目	動物飼育実習⑮	指導力を身につける

科目名	動物飼育実習Ⅳ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	実際に動物を世話することで飼育に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物飼育実習①	動物種別の健康管理
第2回目	動物飼育実習②	動物種別の健康管理
第3回目	動物飼育実習③	動物種別の健康管理
第4回目	動物飼育実習④	動物種別の健康管理
第5回目	動物飼育実習⑤	動物種別の健康管理
第6回目	動物飼育実習⑥	動物種別の健康管理
第7回目	動物飼育実習⑦	動物種別の健康管理
第8回目	動物飼育実習⑧	動物種別の健康管理
第9回目	動物飼育実習⑨	動物種別の健康管理
第10回目	動物飼育実習⑩	動物種別の健康管理
第11回目	動物飼育実習⑪	飼育管理振り返り
第12回目	動物飼育実習⑫	飼育管理振り返り
第13回目	動物飼育実習⑬	飼育管理振り返り
第14回目	動物飼育実習⑭	飼育管理振り返り
第15回目	動物飼育実習⑮	総まとめ

科目名	動物美容総合実習Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	90時間	単位数	3単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	現場実習を通じてトリマーとしての自身の在り方や方向性を考える。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	トリマーとして必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた企業において実施する。なお実習中に不足の事態が生じた場合は、三者(学校・学生・動物企業)で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	90時間習得しなければならない。		

授 業 計 画 内 容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。

動物企業現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。

1. 実習準備

- ・事前訪問予約
- ・持ち物・実習の内容等確認

2. 実習(実務型実習)

- ・諸注意事項確認
- ・実習日誌を書く(感想・反省・自己評価)
- ・清掃
- ・グルーミング業務

3. 実習後指導

- ・実習日誌まとめ提出
- ・お礼状

科目名	検定対策Ⅲ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	取得した知識の実践を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト・過去問題集など。		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は演習問題を繰り返すため、主体的に取り組み理解を深める学習をしてほしい。また、テーマによっては、講義も行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	電話対応技能①	電話対応技能検定4級対策①
第2回目	電話対応技能②	電話対応技能検定5級対策②
第3回目	電話対応技能③	電話対応技能検定6級対策③
第4回目	ペットフードマナー検定①	ペットフードについて①
第5回目	ペットフードマナー検定②	ペットフードについて②
第6回目	動物健康衛生管理士①	動物健康衛生管理士2級検定対策①
第7回目	動物健康衛生管理士②	動物健康衛生管理士3級検定対策②
第8回目	動物健康衛生管理士③	動物健康衛生管理士4級検定対策③
第9回目	動物健康衛生管理士④	動物健康衛生管理士5級検定対策④
第10回目	動物健康衛生管理士⑤	動物健康衛生管理士6級検定対策⑤
第11回目	動物健康衛生管理士⑥	動物健康衛生管理士7級検定対策⑥
第12回目	動物健康衛生管理士⑦	動物健康衛生管理士8級検定対策⑦
第13回目	動物健康衛生管理士⑧	動物健康衛生管理士9級検定対策⑧
第14回目	動物健康衛生管理士⑨	動物健康衛生管理士10級検定対策⑨
第15回目	動物健康衛生管理士⑩	動物健康衛生管理士11級検定対策⑩

科目名	就職実務Ⅲ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	履歴書の書き方や身だしなみ、心構えなど、就職活動の基礎を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職活動の基礎を学び、円滑な就職活動の準備をする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は講義になるが、テーマによっては実技演習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	インターンシップ実習振り返り	インターンシップ実習を振り返り、発表する
第2回目	企業研究①	就職希望の企業を研究
第3回目	企業研究②	就職希望の企業を研究
第4回目	企業研究③	就職希望の企業を研究
第5回目	企業研究④	就職希望の企業を研究
第6回目	企業研究⑤	就職希望の企業を研究
第7回目	履歴書①	履歴書の内容確認
第8回目	履歴書②	履歴書の作成
第9回目	履歴書③	履歴書の作成
第10回目	履歴書④	履歴書の作成
第11回目	履歴書⑤	履歴書の作成
第12回目	面接練習①	模擬面接
第13回目	面接練習②	模擬面接
第14回目	面接練習③	模擬面接
第15回目	面接練習③	模擬面接